

東大和市立図書館

図書館だより

平成23年 夏
通巻17号

ホームページアドレス <http://www.lib.higashiyamato.tokyo.jp>

日本建築家協会 JIA25年賞 受賞!!



— 目 次 —

- ・日本建築家協会 JIA25年賞 受賞!!
..... 2
- ・3.11. それからの図書館
..... 3
- ・子ども読書活動推進計画 策定着手
..... 4
- ・ある日の図書館...
..... 4

このたび中央図書館の建物が、日本建築家協会（JIA）から、JIA25年賞を受賞しました。

この賞は、25年以上にわたって、地球環境に貢献し、美しく維持され、社会に建築の意義を語りかけてきた建築物に与えられるものです。

今回の図書館だよりでは、この表彰を受けた中央図書館が、どのようなつくりになっているのか、少し見てみようと思います。

中央図書館の特徴を、いくつかのキーワードでご紹介します。

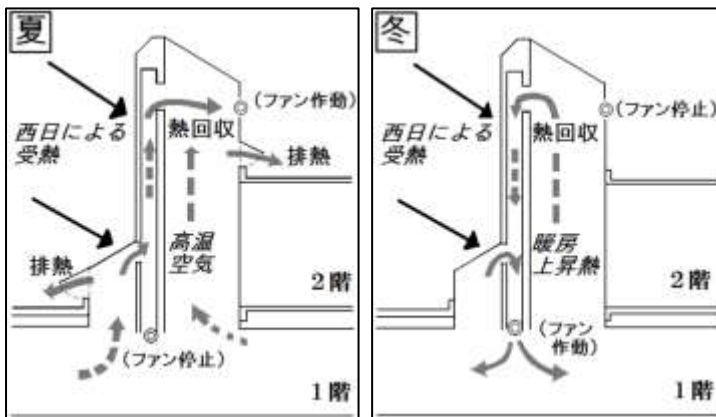
・省エネ構造

まずあげられるのは、省エネルギーに配慮し、自然採光・自然通風を積極的に取り入れているところです。

特に空調に関しては、自然の法則を利用した室温調整ができるような構造になっています。

それは、強い西日を遮断する大きな中空壁を設置し、中空壁とトップライトガラス部分の太陽受熱を、夏季には吹抜け上部に溜まる熱と一緒に外部へ排出し、冬季には吹抜け部分の暖房上昇熱とともに回収し1階開架室で再利用する仕組みです。

以上のような、壁を起点にした熱循環の考え方は、「呼吸する壁」と名付けられ、中央図書館の大きな特徴となっています。



ところで、近年の環境破壊の深刻化は、人間の活動にも、地球に負荷をかけないような配慮を求めるようになりました。加えて東日本大震災以降は、例年以上に節電が求められています。

しかし、中央図書館のつくられた1980年代は、もちろん環境問題は顕在化しつつあったとしても、今日ほど声高に省エネルギーが叫ばれる時代ではありませんでした。

そのような中でここまで省エネルギー

を追求したところには、図書館を作った人たちの高い理想と先見の明があったといえるでしょう。

・すべての人に利用しやすいこと

図書館は老若男女すべての方が利用する施設であることを強く意識して、あらゆる世代の人、そして体力のない人にも配慮したものとなっています。書棚や壁の出隅を丸く設計するなどといった子どもへの配慮、車いすを想定して引き戸を多用するなどのお年寄りや身体の不自由な方への配慮など、さまざまな部分で、安全性や利用しやすさを重視したつくりとなっているのです。

・デザイン

派手なつくりを誇る建物ではありませんが、階段吹抜け周りには図書館にちなんだ装飾が施されています。陶板の壁面は、西田京大教授（当時）の監修による『世界の文字』が焼付印刷されています。また2階のガラス面は、図書の分類一覧がシルクスクリーン印刷してあります。

・みなさんの利用に支えられて

このような工夫に富んだ構造のため、中央図書館は以前にも建物の表彰を受けていますが、今回のJIA25年賞の受賞では、図書館の建物そのものだけでなく、その使われ方や維持管理の姿勢も評価されたものといえます。これは、市民のみなさんが図書館を利用してくださっているからこそ得られた賞なのです。

われわれは、設計者・施工者の技術に敬意と感謝の念を抱くとともに、当時図書館作りに関わった人たちの熱意を受け継ぎ、これまで以上に市民のみなさんが利用しやすい図書館にしていきたいと考えています。

3. 1 1. それからの図書館

あの日の図書館

3月11日、東日本大震災が発生した時、図書館は開館中でした。経験したことのない大きなゆれでしたが、幸い3館ともけが人や建物の大きな損傷もなく、本が数冊落ちた程度でした。

建物の状況などの安全確認をして、予定どおりに中央図書館の夜間開館も含めて、開館を続けました。

翌日からの図書館

・図書館内の防災体制

余震が続いていたので、ラジオの地震速報や震度情報を全館放送していました。また、職員全員で避難誘導やいざという時の対応について、再確認をしました。

・震災関係資料の展示

誰もがこれからの「備える」必要を感じていたことと思います。阪神大震災や中越地震後に多く発行された防災関係やサバイバル生活の知恵、当時の体験談などの本を展示しました。

福島第一原発の事故が深刻になってからは、地震・防災だけでなく、原子力発電のしくみ、被曝に関すること、チェルノブイリ原発事故などの資料などを追加展示しました。



・「生活情報コーナー」の設置

中央図書館の入口ロビーの掲示板に、東大和周辺に特化した情報や生活に関わる情報などを貼り出しました。

公共交通機関の運行状況や計画停電の予定、また、支援物資の受付など市役所からの情報、放射能への対応など、刻々と変わる情報を毎日、インターネットや新聞から抜き出していました。

・サービスへの影響

安全の確保などを理由に、みずうみ号と夜間開館は、それぞれしばらく休止をさせていただきました。一方で、全館休館やサービスを縮小した自治体もありましたが、当市は、3館とも計画停電時間中も開館できました。

「大震災」の影響と思われるご利用も多く、図書館は「情報のオアシス」となっていました。

被災地支援

市民の方から要請があり、紙芝居を東北地方の幼稚園や保育園に寄付しました。みずうみ号を10月までの予定で石巻市のボランティア活動に貸出しています。出発時には寄贈本500冊を乗せました。

そして、今…

避難者の方は、市民同様に利用カードを発行し、ご利用いただけます。

また、より詳しい情報を提供するために、7月から『福島民報』を中央図書館で購入しています。バックナンバーは予約・貸出しできます。

節電のため、空調は28度を基本とし、照明を減らす、利用者用パソコンのスイッチを切るなど、工夫をしています。

みずうみ号の運休を含め、ご不便をおかけしておりますが、ご理解ください。

子ども読書活動推進計画 策定着手

「子どもたちに本を」という活動は、様々な形で行われていますが、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定されてから、国や都、市区町村で推進計画に基づく活動推進が図られるようになっていきます。

東大和市でも今年度から子ども読書活動推進計画策定委員会を発足させ、策定作業を始めました。

あらゆる機会をとらえて、「子ども」と「読書」の関わりを広め、深めるために、策定委員は図書館を事務局として、学校、福祉関係部署などの責任者で構成されています。

計画策定・実行の意義を共通認識とするために、まず、日本図書館協会の児童青少年委員長・坂部豪氏による研修会を行いました。また、他自治体の計画を参考としたり、市内の実態を把握するために、各方面にアンケート調査をしています。

今後は、実効性のある計画を目指して、文案作成をしていきます。

ある日の図書館…



最近話題の立川断層の関連資料

『新編 日本の活断層』1991

『都市圏活断層図 IV』1996

『東京の活断層』1999

『立川断層に関する調査 概要報告書』
1999

図書館では以前から所蔵の古い資料の利用が急に増えることがあります。

吉村昭の『三陸海岸大津波』1984刊と改題前の『海の壁』1970刊も、そんな例です。

次回の除籍資料の市民配布

10/21(金)～11/7(月)
中央図書館2階ロビーにて開催

今回から、雑誌の付録で本誌に付けられないものも、配布することにしました。

年度途中のため、雑誌本誌の配布はありません。

〈編集後記〉

大震災と原発事故、それに続く生活の変化は、深刻な被災地とは比べものにならないまでも、東大和でも日々、実感します。そんな中で図書館は、皆さんの「いつも」にも「もしも」にも役立っているのでしょうか？
み記

発行：平成23年8月(通巻17号)

東大和市立中央図書館 Tel.042-564-2454

桜が丘図書館 Tel.042-567-2231

清原図書館 Tel.042-564-2944